

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38265	
事業名	仮称)動物愛護センター整備費						
評価担当課	所属名	保)保健所 動物管理センター					
	課長名	千葉 司	担当者名	相馬 司	電話番号	011-736-6134	
施策名	主	子ども・若者を社会全体で育成・支援する環境づくり					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	(仮称)動物愛護センターの令和5年度の供用開始に向け、令和2年度に基本設計、令和3年度に実施設計、令和4年度に着工、令和5年度に竣工、供用開始予定				
		長期	「人と動物が幸せに暮らせるまち・さっぽろ」の実現				
	取組内容	「人と動物が幸せに暮らせるまち・さっぽろ」の実現に向けて、札幌市動物愛護推進計画に基づき、施策を推進する基幹施設である(仮称)動物愛護センターを整備する。					
	実施結果	実施設計を完了した。					
事業実施における工夫点	徹底した省エネ、創エネ、エネルギー・マネジメント対策によるZEB化を検討する。基本設計のプロポーザルの結果、躯体の構造を木造とし、従来の殺処分施設のイメージを払拭した温もりある雰囲気のある施設を目指している。						
対象者	市民全体			開始	令和2年度	終了	令和5年度
関連法令・条例・要綱等	動物の愛護及び管理に関する法律、札幌市動物の愛護及び管理に関する条例、狂犬病予防法						
他都市の状況	政令指定都市では、横浜市、京都市、川崎市、都道府県では、大阪府、神奈川県、宮崎県、秋田県などで、近年、愛護センターを開設している。						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	11,714	41,000	38,022	235,000	
うち特定財源	5,500	35,383	28,536	184,811	
人工	1.0	1.0	1.0	1.0	
人件費	7,200	7,200	7,200	7,200	
計(事業費+人件費)	18,914	48,200	45,222	242,200	
事業費の内訳	令和3年度決算	非常勤職員報酬:150千円、時間外勤務手当:677.9千円、需用費(その他)171.7千円、役員費その他187千円、その他委託料:1,276千円、資本的支出:32,996.7千円(地質調査3,923.7千円・実施設計(総合)22,440千円・実施設計(設備)6,633千円)、除却費2,238.2千円、借地借家料・継続的使用料賃借料288.3千円、その他備品購入費36.3千円			
	令和4年度予算	非常勤職員報酬:350千円、工事請負費(資本的支出)229,813千円(建築工事190,191千円、設備工事39,622千円)、委託料(資本的支出)4,837千円(建築監理費4,369千円、設備監理費468千円)			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	(仮称)動物愛護センターの整備(2022年度着工)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	基本設計完了	実施設計完了	実施設計完了	着工	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	(仮称)動物愛護センターの整備(2022年度着工)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	基本設計完了	実施設計完了	実施設計完了	着工	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	令和3年度の執行目標であった実施設計業務を完了した。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	札幌市動物愛護管理推進計画で定めたとおり、現動物管理センターの八軒本所と福移支所の機能を統合・強化した施設の設計を目指し、動物愛護管理に関わる指導・啓発業務と収容動物管理を同施設で行うことができる施設設計とした。 また、収容動物の動物福祉・衛生条件に配慮し、適切な飼養管理を行える施設を目指すとともに、設計において省エネを徹底し、消費エネルギーが従来建造物の50%以下とするZEB readyの達成を目指した。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	建物構造を木造とすることで森林環境譲与税を財源として用いることを可能とし、従来のRC造建造物に比べて施設維持費の削減が見込める設計となった。さらに、省エネに加え災害対策拠点となる施設とすることで、環境省の「レジリエンス強化型ZEB実証事業補助金」の利用を可能とした。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	現動物管理センターにはない、多目的ホール(100人規模)や屋内運動場を設計に盛り込むとともに、木造化による「優しく温かみのある施設」とすることで、多くの市民が気軽に利用することができる場所とした。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input checked="" type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	なし。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	省エネ・災害対策の考えを取り入れた施設を目指すこととした。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	令和3年度の目標であった実施設計業務が遅滞なく完了し、構造・施設ともに、当初の目標であった「人と動物が幸せに暮らせるまち・さっぽろ」の実現の一助となり得る設計内容を達成したため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 令和5年度は令和4年度に引き続き工事を行う。また、(仮称)動物愛護センター完成後には、現動物管理センターの解体に着手する。			
	予算	● 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 令和5年度は工事が本格化するため、令和4年度よりも経費増となる見込み。		見直し効果額	0 千円